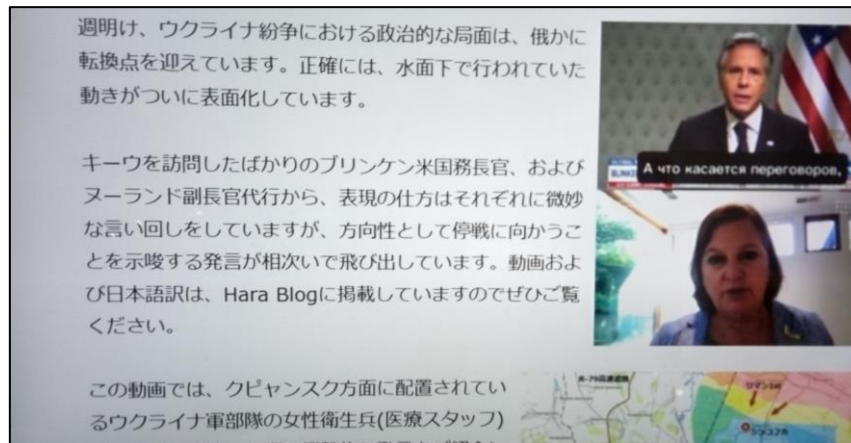


9月15日のウクライナ情報

安齋育郎

①クピャンスク方面のウクライナ軍女性衛生兵が人生のすべてを賭けて惨状を語る「クリミアを取り戻すなどと言っている場合ではない」(原伸一チャンネル、2023年9月12日)

<https://youtu.be/rVLF-V5kiFk>



②BRICS 台頭の意義とは？

まず、BRICS とは何でしょうか？何のためにあるのか？BRICS の台頭の意義と、世界の基軸通貨であるアメリカ・ドルに対する潜在的な挑戦とは？

まず、BRICS とは、ロシアや中国といった主要国、経済大国を含む 5 カ国の頭文字をとったものです。その意義は、米国が世界の基軸通貨としてドルを支配し、その支配に成功している制裁体制に対する、第二・第三世界とでも呼ぶべき国々の反乱であるということです。

BRICS の人々は今、為替レートがどうであれ、自国の通貨を使って石油やエネルギー製品を買いたいと言っている。我々は基本的にロシアからお金を盗んだ。アメリカはイランにも同じことをした。ベネズエラにも同じことをし、政治的な理由で通貨システムの支配を利用した。そして今、人々はノーと言っている。そのような拘束から解放された世界を望んでいるのだ。

ジョー・バイデン氏が行った制裁は、1936 年に最高裁がアメリカ大統領にできることを認め、議会がその権限を与えたものですが、このような制裁をロシアやロシアと取引する人々、例えばロシアの銀行に対して行ったことは、BRICS をより魅力的なものにする大きなきっかけになったと思いますか？

もちろんです。私は、米国には人々が自分のお金で何をするか、どのように生きるかを指図できる本質的な権利はないと思うが、米国はその権利を一方向的に主張した。そして、彼は制裁の意味について大きな誤解をしている。

アメリカ政府はロシアが誰とでも取引やビジネスができることを理解しているはずですが。我々がノルド・ストリーム・パイプラインを破壊する前に、ドイツがロシアから買うはずだった天然ガスはどうなったのだろうか？ロシアは別の顧客を見つけたに違いない。

ロシアはまさにそのことに取り組んでいます。ロシアからシリアやイランのような友好国を経由するパイプラインの話があり、そこで積み込まれ、インドや日本のような国々に販売される。米国がロシア

や中国やイランにやっていることを、インドやアフリカの国々が植民地支配後の指導者たちを追い出そうとしている今、制裁の話が持ち上がっている。

これは、ネオコンがあらゆるパイに指を突っ込みたがる、何度も何度も繰り返されるゲームではないか。

彼らは世界をコントロールしたがついていて、最初からそうだった。これは彼らの世界征服計画の25周年記念であり、アメリカが軍事面で敵対するすべての国を圧倒し、数で上回ることにかかっている。

そしてもちろん、これは米国を破産させる。

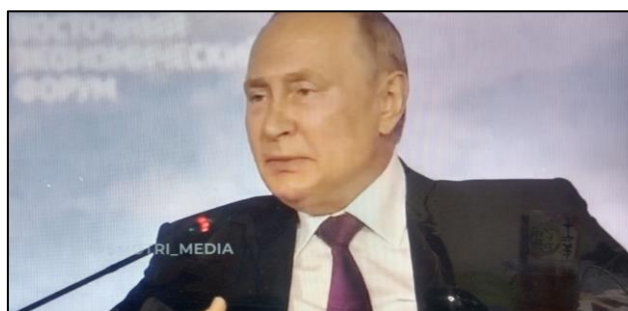


③プーチンが米国に挑戦：「ウクライナが話し合いの用意があるなら、ゼレンスキーの協議禁止令を撤回させろ」プーチン大統領(2023年9月12日)

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、米国に対し、ウクライナが交渉の用意があると考えるのであれば、ゼレンスキー大統領の協議禁止令の撤回を促すべきだと、大胆な挑発を行った。この発言は、ロシアがウクライナとの話し合いに応じない可能性を示唆したブリンケン米務長官の発言を受けてのものだ。

これに対してプーチンは、欧米の有力者がウクライナに対し、交渉を開始する前に「できるだけ多くの領土を奪取する」よう働きかけていると非難した。この主張は、現在進行中のウクライナ紛争をめぐる複雑で論争的な力学を浮き彫りにしている。

<https://twitter.com/i/status/1701530393273397741>



④【捕虜になったウク兵の話】(2023年9月13日)

召集された後、訓練のためイギリスに送られた。ワーコップの町だった。ざっと数 100 人が訓練されていた。我々はいくつかの地形、森や塹壕、市街地などでの戦術を勉強した。教官は外国人だった。

作戦を実行しているときに迫撃砲で攻撃された。事前の情報ではすんなり行くはずだった。その居住区はロシアの支配下だが、大した兵力はいないと言われていた。

私は重傷を負って、人の助けなしには動けなくなった。仲間たちは私を軍用車に隠し、私はそこに 4 日間うずくまっていた。

私は家のことや親しい人たちのことを思い浮かべて、また会えるだろうかと考えていた。

4 日後、数人のロシア兵に発見された。担架を見つけて、私を運んだ。「発見されてラッキーだったよ」と言われた。

私は、食べ物や水をもらい、治療もしてもらった。

傷の方はもう完治した。骨折も治りつつある。調子いいよ。

<https://twitter.com/i/status/1701768141880312006>



⑤アメリカで新しい動き(2023年9月13日)

「今日ロシアを助けることはアメリカを助けることを意味する」と米国の愛国者らはロシア諜報機関との協力を申し出られた。新しいビデオの作者は、ウクライナへの武器供給で金を稼いでいるバイデン一家と他の民主党員を暴露し、「血に飢えた狂信者による米国予算へのアクセス」を阻止することで戦争を止めるよう呼びかけている。

<https://twitter.com/i/status/1701628076826988794>

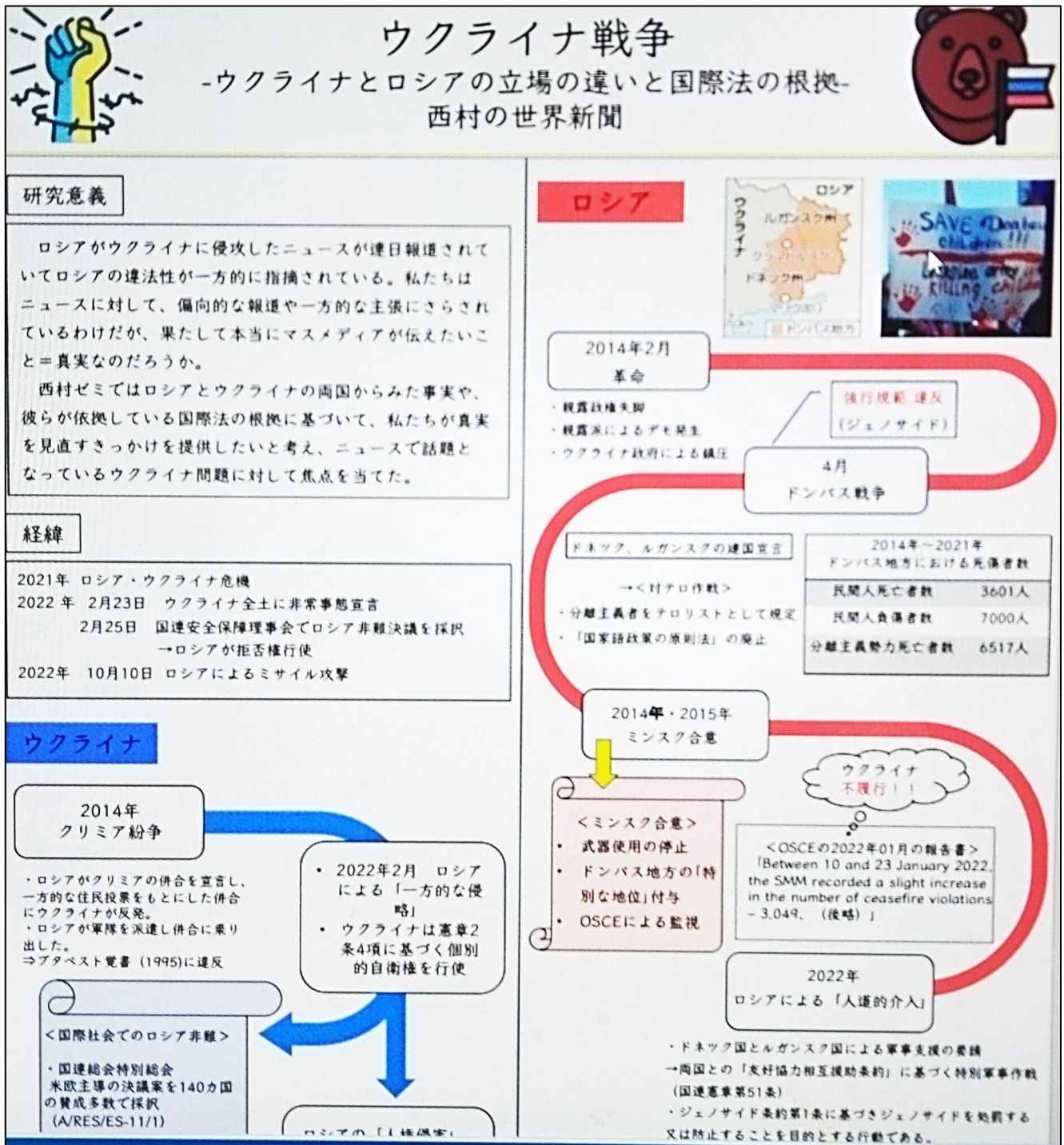


⑥ウクライナとロシアの立場の違いと国際法の根拠(西村の世界新聞、2023年)

ロシアがウクライナに侵攻したニュースが連日報道されていてロシアの違法性が一方的に指摘されている。私たちはニュースに対して、偏向的な報道や一方的な主張にさらされているわけだが、果たして本当にマスメディアが伝えたいこと＝真実なのだろうか。

西村ゼミではロシアとウクライナの両国からみた事実や、彼らが依拠している国際法の根拠に基づいて、私たちが真実を見直すきっかけを提供したいと考え、ニュースで話題となっているウクライナ問題に対して焦点を当てた。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/ir/open-seminar/assets/file/document/2022/poster-C-10.pdf>



⑦西側諸国はプーチン大統領を狙って仕掛けた危険な罠にはまった＝メディア (2023年9月14日)

西側諸国は自らの過ちによって罠にはまった。彼らはウクライナ軍が前線で成果を上げ、制裁の圧力によってロシア経済が崩壊すると見込んでいたが、そのような見通しは実現しなかった。イタリアの社会学者、アレッシェンドロ・オルシーニ氏はイタリアの新聞 Il Fatto Quotidiano に寄稿した記事でこのように指摘している。

同氏は「ウクライナの反転攻勢は完全に大失敗している。時間の経過とともにウクライナ政府の状況は著しく悪化した。一方、ロシアの GDP は成長しており、その軍は見事に組織され、装備されている。中国はロシアと緊密に協力しており、BRICS のグループはモスクワー北京の軸を中心に確信を持って拡大している。さらにプーチン大統領は、かつて欧州と結びついていたアフリカ諸国の政府を味方に引き入れている」と説明している。オルシーニ氏によると、これは欧州連合(EU)と米国内部の問題および国際的な政治研究機関の知識の浅さを物語っている。

同氏は「なぜ EU は、明らかに自分たちを窮地に追い込むであろうウクライナ紛争に火をつけて自殺することを決めたのだろうか?」と問いかけている。オルシーニ氏は、その原因はこの政治集団における権力移行のメカニズムにひそんでいると考えている。同氏によると、EU のウルズラ・フォン・デア・ライエン委員長は北大西洋条約機構(NATO)の事務総長に就任し、EU ではなく米国の利益を擁護することになる。また米国のバイデン大統領は、ドイツの経済成長と欧州におけるその政治的影響力が大陸での米国の覇権を脅かしているため、ドイツにロシアとのエネルギー同盟を破棄させてドイツの経済成長と政治的影響力を抑制するためにウクライナ紛争を必要としていたという。

なお、オルシーニ氏は、ウクライナ軍が前線で自分たちの状況を改善できる見込みはなく、ロシア経済が崩壊している証拠もないと指摘している。同氏は、したがって西側諸国はプーチン大統領を狙って自分たちで仕掛けた罠に自分たちがはまってしまったと結論付けている。

スプートニクは先に、紛争でウクライナを支援する西側諸国の目的はもはやウクライナ政府の意図と一致していないというショーン・ベル英空軍副元帥(退役)の見解を報じた。



⑧

彼らの関心は、プーチンを排除し、ロシアの天然資源を手中に収め、アメリカの支配下に置くという究極の目標に向けて、ロシアを弱体化させようとしているだけなのです。そして週を追うごとに、アメ

リカの立場はどんどん弱くなっている。北朝鮮の金正恩委員長がロシアにいる。ロシアは拡大している。マクレガーは「水平的エスカレーション」という言葉を使ったが、まさにその通りだ。米国、ロシアは今、米国が心配しなければならない新たな問題を生み出している。

G20 は BRICS とは対照的に失敗だった。BRICS には加盟を希望する国々が列をなしている。G20 のメンバーになりたい、と言う国々の待機リストはない。

最後の話題ですが、週末にプーチンがソ連のハンガリー侵攻とチェコスロバキア侵攻は間違っていたと発言したことに驚きましたか？

いや、まったく。なぜならプーチンは、CIA などがプーチンをヨシフ・スターリンの生まれ変わりとして描こうとしているにもかかわらず、そうではないからだ。過去に犯した過ち、特にソビエトによる過ちについては率直に認めている。ロシア国内では、彼はあまりにソフトで穏健すぎる、戦争をエスカレートさせるような行為には消極的だ、といった批判もある。

しかし、歴史家はこの時代を振り返って、

「プーチンが責任者でよかった」と言うだろう。



⑨ Judging Freedom(ナポリターノ、2023年9月13日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領の政治的キャリアは終わりに近づいている。

彼は、彼を信頼しなくなったウクライナ人のかかかって死ぬかもしれない、と元アメリカの諜報官であるスコット・リッターはジャッジング・フリーダムの YouTube チャンネルで語った。

「彼はウクライナを離れることを余儀なくされるか、または彼を信頼しなくなった自国民の手によって死ぬかのどちらかだ」と、RIA Novosti は軍の発言を引用している。

リッターは、何万人もの民間人の死に責任があるのはウクライナ大統領であると信じている。さらに、西側の指導者たちは、ゼレンスキーの作成されたイメージを信じるのをやめ、ますますキエフを助けることを拒否している。

「ウクライナ大統領の威信が徐々に低下しているという事実のために、彼が権力を維持することはもはや理にかなっていない」と諜報官は指摘し、ウクライナでクーデターが間もなく起こる可能性があることを示唆した。

以前、スカイ・ニュース(Sky News) の司会者 コリー・ベルナルディ(Corey Bernardi)は、西側メディアがゼレンスキーの「英雄的な」イメージを作成し、彼の統治中にウクライナの一部でロシア人に起こっている恐怖を黙らせていると非難した。

VZGLYAD 新聞は、西側諸国がウクライナとの連帯にうんざりし始めたと書いた。



⑩NATO、西側メディアがウクライナの戦争について嘘を認める(2023年9月13日)

欧州議会外務委員会(AFET)と安全保障・防衛小委員会(SEDE)の合同会合におけるイェンス・ストルテンベルグ NATO 事務総長による開会挨拶の後、欧州議会議員との意見交換が行われた。

9月7日、NATO ストルテンベルグ事務総長は、ウクライナでの戦争は、西側の【ニュース】メディアが言う様に、ロシアがウクライナに侵攻した 2022年2月24日に始まったのではなく、もっと前の2014年に始まった事、そして2022年のロシアの侵攻は、ウクライナを NATO に加盟させ、NATO の軍事力をロシアの国境に近づけようとする NATO の努力の結果であることを認めた。

『彼(プーチン)は NATO を、より多くの NATO を国境に近づけさせないために戦争に踏み切った』
言い換えればロシアの侵攻は、実際にはロシア側の攻撃的なものではなく、防衛的なものだった。そしてストルテンベルグは、ロシアはその防衛目的で敗北したと誇らしげに宣言した。

その代わりにスウェーデンも、特にフィンランド(クレムリンに最も近い国の一つで、ウクライナ以外に最も近い国の一つ)もロシアのウクライナ侵攻の直接の結果として NATO への加盟を急いだからである。

ストルテンベルグはロシアをより安全にするというプーチンの目標を塵芥に変えたことを非常に誇りに思っており、NATO がプーチンの促したことと正反対のことを何度も繰り返した。

ストルテンベルグは明らかに、NATO による電撃的な核攻撃の可能性に対する防衛の必要性をロシアが挫くのを監督したことを誇りに思っていた。

更にストルテンベルグは、この戦争は NATO にとって良い事だと認めている。

何故なら NATO 加盟国は軍事兵器への支出を増やす事を余儀なくされ、それにより有権者が通常もっと関心を寄せる他の問題への支出を減らすことを余儀なくされているからだ。



①【欧州議会外務委員会(AFET)と安全保障・防衛小委員会(SEDE)の合同会合におけるイェンス・ストルテンベルグ NATO 事務総長による開会の辞に続き、欧州議会議員との意見交換が行われた。】2023年9月7日

『戦争は昨年2月に始まったのではない。

2014年に始まった。

本格的な侵攻は昨年起こったが、戦争、クリミアの違法な併合、ロシアがドンバス東部に入ったのは2014年だ。

それ以来 NATO はこの同盟に対して近代史上、過去数十年で最大の適応策を実施してきた。

その一環が防衛への投資拡大だ。

以前にも申し上げたと思うが、国防に資金を割くのは難しい。

殆どの政治家は国防ではなく、医療や教育、インフラ整備に資金を使いたがるからだ。

その背景にはプーチン大統領が2021年の秋に、NATO にこれ以上 NATO を拡大しないと宣言し、実際に条約案を送ってきた事がある。

それが彼が私達に送ってきたものだった。

そして、ウクライナに侵攻しない事が前提条件だった。

勿論、我々はそれに署名しなかった。

彼は NATO を決して拡大しない約束に署名するよう求めた。つまり NATO の半分、中欧と東欧の全てについて NATO を同盟の一部から外し、ある種の B 級或いは 2 級加盟を導入すべきだというのだ。

我々はそれを拒否した。

【だから彼は NATO が自国の国境への接近を阻止する為に戦争に踏み切った。】

しかし、彼は正反対の事をやってのけた。

フィンランドは既に同盟に加盟し、スウェーデンは間もなく正式加盟する。』

ストルテンベルグは2023年5月9日、『戦争は2014年に始まった。2022年に戦争が始まったのではない事を忘れてはならない』とまで明言していた。

ここに、ウクライナの戦争がどの様に始まったかをオリジナルのビデオクリップで正確に示した短いビデオ(僅か10分)がある。

<https://youtube.com/watch?v=fWkfpGCAUuw>

そこにはオバマ米大統領が2014年2月に、オバマ政権がかなり以前から計画段階に入れていたクーデターによって戦争を始めたことがはっきりと示されている。

民間 CIA 企業ストラトフォーの創設者兼代表は、これを【歴史上最も露骨なクーデター】とまで呼んだ。

<https://archive.is/gLnu0>

米国政府によるクーデターであったことを証明する決定的な証拠は、クーデター首謀者であるヴィクトリア・ヌーランドがクーデターが最高潮に達する1カ月前に、オバマの駐ウクライナ大使ジェフリー・パイアットに、クーデター後のウクライナの指導者に誰を任命すればいいかを話しているこの録音である。

<https://youtube.com/watch?v=WV9J6sxCs5k>

そして、米政権が主張する【民主革命】ではなく【クーデター】であったことを EU のトップでさえ知らなかった事を証明する決定的な証拠が、クーデターが終わった直後に EU の外務大臣がキエフから電話で調査官からクーデターであったことを聞かされたときの録音である。

<https://youtube.com/watch?v=ZEgJ0oo3OA8>

2019年11月4日、ウクライナでの戦争が実際にアメリカ政府によって始められたことについて、検証された証拠が十分に知られるようになった後、私は【クリミアのロシア海軍基地を奪取するオバマ政権の計画】という見出しをつけた。

<https://archive.is/cU1oa>

9月7日のストルテンベルグ大統領の演説では、アメリカのクーデターが無視され、クーデターの後直ぐにクリミアが分離独立した事まで無視された。

何故なら2014年3月16日にクリミアで国民投票が行われ、クリミアが1783年から1954年まで属していたロシアの一部となることに90%以上の賛成票が集まったからだ。ドンバスの分離独立は、オバマがインストールしたウクライナ政府が2014年4月にドンバスへのエチケット・クレンジング侵攻を開始した後に起こった。つまり、ストルテンベルグが言ったことは事実だが、それは非常に不完全なものだった。クーデターとクーデター政権による民族浄化作戦について触れていないからだ。

⑫開会挨拶: 欧州議会外務委員会(AFET)と安全保障・防衛小委員会(SEDE)の合同会合におけるイエンス・ストルテンベルグ NATO 事務総長による開会挨拶の後、欧州議会議員との意見交換が行われた(2023年9月7日)

議長、デビッドさん、ナタリーさん、そして欧州議会の皆さん、本当にありがとうございます。欧州議会で皆様と再びお会いでき、また、このような形で NATO と EU の協力関係を示すことができ、本当にうれしく思います。ご存知のように、NATO と欧州連合(EU)の協力関係を強化することは、私が2014年に NATO 事務総長に就任して以来、私の最優先課題であった。私は NATO と EU の協力を信じています。我々は同じ課題を共有している。我々は 2 つの異なる組織ですが、多くの共通点を持っています。

ご存知のように、6 億人のヨーロッパ人が NATO 加盟国に住んでいます。スウェーデンが NATO に加盟すれば、EU 市民の 96%が NATO 加盟国に住むこととなります。ですから、私たちは異なる存在であり、異なる制度を持っていますが、多くの共通点を持っています。それゆえ、近年、サイバー、宇宙、重要インフラ、軍事的機動性に関して NATO と EU の協力関係を強化できたことは喜ばしいことであり、西バルカン半島やコソボ、エーゲ海での不法移民への対応など、多くの分野で手を携えて取り組んでいる。

このことは、あなたがおっしゃるように、今年の初めに私が 2 人の EU 大統領による第 3 回共同宣言に署名したことにも反映されています。フォン・デル・ライエン大統領とミシェル大統領です。彼らは ヴィリニウスで開催された EU 首脳会議に参加しました。私は 6 月に欧州理事会に出席し、すべての EU 首脳と会談しました。このように、私たちはさまざまなレベルで会談し、緊密に協力し合っています。

このような努力を支援し、欧州連合(EU)と北大西洋条約機構(NATO)の協力関係を強化することを可能にした欧州議会議員としての皆さんを称賛したいと思います。もちろん、私たちにはまだまだやるべきことがたくさんありますが、私たちはこの数年間、両組織のパートナーシップと絆を確かなも

のにしてきたことを誇りに思うことができます。

NATOとEUの協力は常に重要であったが、ウクライナにおける戦争はその重要性をさらに高めている。だからこそ、われわれが結束することがより重要なのだ。

そして現実には、プーチン大統領は昨年ウクライナに侵攻した際、少なくとも2つの大きな戦略的ミスを行った。まず最も重要なのは、彼がウクライナ人を完全に過小評価していたことだ。ウクライナ人、ウクライナの政治指導者、ウクライナ軍の強さ、献身、勇気を。もうひとつの大きな戦略的ミスは、我々を過小評価したことだ。ウクライナを支援し、経済制裁、政治的支援、そして軍事的支援によってウクライナの側に立つという我々の意志、コミットメントを。

NATO 同盟国、EU 加盟国、EU、NATO からの軍事的支援は前例のないものだ。これは、この戦争が始まったときに誰もが予想していたよりもはるかに大きな支援だ。先進的な大砲、長距離巡航ミサイル、先進的な防空システム、大量の弾薬、そして少なくとも EU や NATO 連合国からの訓練などだ。

オランダ、デンマーク、そしてノルウェーが F-16 を提供する用意があると発表したことも称賛したい。また、多くの同盟国が、ウクライナのパイロットと技術者が F-16 を保有できるようにするための訓練を開始する用意があると発表した。

だから、私たちがしなければならないことはまだたくさんある。しかし、少し立ち止まって、侵攻のほんの数週間前に私たちが考えていた状況と比較して、現在の状況を考えてみよう。少なくとも欧州議会、EU 加盟国、NATO 同盟国、私たちの組織がウクライナの側に立つことを可能にした力、コミットメントを認識する必要があると思います。

そして、これは非常に重要なことです。我々の支援によって、ウクライナ側は反攻を開始することができた。ウクライナ軍は徐々に地歩を固めつつあり、これは我々の支援の重要性を証明するとともに、支援を継続する我々の能力と意欲を証明している。

これは、7月の NATO 首脳会議での明確なコミットメントであり、明確なメッセージでもある。我々はウクライナを支援し続ける必要がある。欧州連合(EU)からも、何度も何度もそのようなメッセージが出されている。そして今回の攻撃は、彼らの側に立つことの重要性を浮き彫りにしている。

NATO 首脳会議では、もちろんウクライナを支援することが主要なメッセージだった。また、ウクライナの NATO 加盟への道筋を進展させることもできた。

我々は、EU がウクライナに加盟候補国としての地位を与えたことを認めている。NATO では、ヴェリニユス・サミットにおいて、ウクライナを加盟に近づけるための重要な決定を行った。

我々は、ウクライナが NATO に加盟することを改めて表明し、さらに加盟に近づくための3つの要素を加えた。

第一に、ウクライナ軍と NATO の間の完全な相互運用性、そして両軍の相互運用性を確保するための実質的なパッケージとそのための資金調達に合意した。そしてこれは、実質的にウクライナを NATO 加盟に近づけるための方法である。もうひとつは、政治的な制度化された協力関係を強化することです。NATO・ウクライナ理事会というものを設立し、ウクライナをパートナーとしてではなく、対等な立場でテーブルを囲むようにしたのです。31 の同盟国、間もなく 32 の同盟国、そしてウクライナとは対等な立場でテーブルを囲む。

この協議会は決定を下すことができる。サミットの直後、穀物取引が中断されたときに行ったように、急な招集も可能であり、危機に対処することもできる。そして、NATO とウクライナの結びつきを強化するために、NATO・ウクライナ(評議会)を実用的で重要なツールへと発展させることが計画されている。

そして NATO 首脳会議で我々が行った 3 つ目のことは、ウクライナが加盟するための加盟行動計画の要件を撤廃することだった。というのも、以前はウクライナに加盟行動計画を与え、それが加盟に向けた一歩となるという考え方だったからだ。ヴィリニユス・サミットでは、加盟行動計画は必要ないと述べた。ウクライナは NATO に近づいただけだからだ。つまり、加盟プロセスを 2 段階のプロセスから 1 段階のプロセスに変えたのです。

相互運用性、NATO・ウクライナ理事会、そしてウクライナに対する加盟行動計画の必要性の撤廃、これら 3 つのことはウクライナが今ほど NATO 加盟に近づいたことはないことを示している。

そして最後に、これは国家は主権を有するという政治的現実を反映したものであることを申し上げておきたい。国家は自ら決定するものであり、ウクライナにはもちろん自らの道を決定する権利がある。そして、ウクライナがいつ加盟するかはウクライナと NATO 同盟国次第である。ロシアはヨーロッパのいかなる主権独立国家に対しても加盟に拒否権を行使することはできない。NATO サミットにおけるもうひとつの主要議題は、抑止力と防衛力の強化であった。というのも、ウクライナでの戦争に関して、基本的に NATO には 2 つの任務があるからだ。ひとつは NATO 同盟国として、また NATO としてウクライナを支援すること。もうひとつは、エスカレートを防ぐことだ。

したがって、モスクワに明確なメッセージを送るために、我々はすでに同盟の東部におけるプレゼンスを高めている。誤解や誤算の余地をなくすためだ。NATO は、NATO の領土の隅々まで、一人は万人のために、万人は一人のために防衛するために存在するのだ。

NATO 首脳会議では、同盟全体の防衛に関する新たな計画に合意した。私たちはまた、より多くの即応態勢の部隊、さまざまなレベルの即応態勢にある 30 万人の部隊を創設し、特定すること、そして必要に応じて迅速に増援できるよう、より多くの航空・海軍能力を備えることにも合意した。

この目的は戦争を防ぐことにある。その目的は、NATO が歴史上最も成功した同盟国であり続けることである。そしてヨーロッパで本格的な戦争が起きれば、信頼できる抑止力を持つことがより重要になり、抑止力と防衛力を強化することで戦争を防ぎ、NATO 同盟国の平和を守ることができるのです。

そして 3 つ目は、NATO 連合国が 2014 年に行ったコミットメントを実際に履行していることを実証したことである。戦争は 2014 年に始まったのだ。本格的な侵攻は昨年起こったが、戦争、クリミアの違法な併合、ロシアがドンバス東部に侵攻したのは 2014 年だった。

それ以来、NATO はこの同盟の近代史において、ここ数十年で最大の適応を実施してきた。その一環が防衛への投資拡大だ。以前にもお話ししたことがあると思いますが、国防にお金を割くのは難しいことです。ほとんどの政治家は国防ではなく、医療や教育、インフラ整備にお金を使いたがるからです。しかし、防衛に投資しなければならないこともありますし、緊張が高まり、リスクが高まっているときには、もっと投資しなければなりません。

そして今年、NATO 加盟国は国防費を 8%以上増加させる見込みです。これはここ数十年で最大の増加であり、そのほとんどは EU 加盟国でもある。防衛費が増えれば、弾薬の生産にも投資できるようになります。私はその努力を歓迎する。欧州連合(EU)の決定も歓迎します。NATO には、弾薬の共同調達に関するさまざまな取り決めがあり、何年も前からそうしてきた。NATO 支援調達機関というものがあります。私は、EU 加盟国や NATO 同盟国が生産を拡大しようとする努力を歓迎しますし、私たちは EU だけでなく EU 以外の同盟国でも、同盟国全体の防衛産業と緊密に協力しています。より多くの防衛費を生産することは、より多くの防衛費を生産するための前提条件なのです。

最後にスウェーデンについて。まず第一に、フィンランドが同盟の一員となったことは歴史的なこと

だ。その背景を忘れてはならない。その背景とは、プーチン大統領が 2021 年秋に宣言し、実際に NATO に署名を求める条約案を送り、これ以上の NATO 拡大を約束させたことだ。それが彼が私たちに送ってきたものだった。そして、ウクライナに侵攻しないことが前提条件だった。もちろん、私たちはそれに署名しなかった。

逆のことが起こった。彼は、NATO を決して拡大しないという約束に署名するよう求めた。つまり、NATO の半分、中欧と東欧のすべてについて、NATO を同盟の一部から外し、ある種の B 級、あるいは 2 級加盟を導入すべきだというのだ。我々はそれを拒否した。

だから彼は、NATO が自国の国境に近づくのを阻止するために戦争に踏み切った。しかし、彼は正反対のことをやってのけた。フィンランドはすでに同盟に加盟し、スウェーデンは間もなく正式加盟する。ヴィリニウス首脳会議では、スウェーデンがより多くのことを行い、マドリッドでのテロとの戦いに関する合意をフォローアップし、軍事装備の輸出に関する問題にも対処することを明確に表明する声明に合意した。

これはエルドアン大統領も何度か繰り返している。だから私は、この秋以降にトルコ議会が再開されれば、できるだけ早く批准が行われると期待している。そうなれば、我々は 32 の同盟国となり、スウェーデンもフィンランドも加盟することになる。

これは北欧諸国にとって良いことだ。フィンランドやスウェーデンにとってもいいことだ。そして NATO にとっても良いことだ。プーチン大統領が NATO の強化を阻止するためにヨーロッパのある国に侵攻したとき、彼は正反対のことをやってのけたのだ。

私は 10 分を使い切ったか、あるいはそれ以上使ったと思う。ですから、コメントや質問の時間をできるだけ多く取るために、ここで終わりにします。ありがとうございました。

意見交換

NATO 事務総長：ありがとうございました。ご指摘いただいた問題については、できるだけ多く取り上げたいと思います。しかし、あまりに的確で具体的な質問が多いため、そのすべてに踏み込むことはできません。しかし、それらをグループ分けしてみます。まず、質問と関心に感謝します。また、このセッションと皆さんからの質問は、NATO と EU の協力の価値を示していると思います。というのも、皆さんが提起された問題のほとんどは、NATO と EU が共通の課題に対処するためにどのように協力しなければならないかということに関連する問題だからです。また、多くの方がウクライナについて、そして我々がウクライナをどのように支援できるのか、ウクライナのためにもっと何ができるのかについて質問されるでしょう。

まず第一に、政治的なレベルでの調整だけでなく、非常に実際的なレベルでの調整も行われている。ヴィースバーデンには調整セルがあり、NATO 同盟国や EU 加盟国が一緒になって、ウクライナのニーズを特定し、さまざまな国々に働きかけ、支援パッケージを確実に構築するために、援助や支援を実質的に調整しています。というのも、軍事支援を提供する場合、大砲を提供するだけではないことを理解する必要があるからだ。大砲だけでなく、弾薬、予備部品、訓練、メンテナンス施設も提供することで、システム全体が機能するようにするのだ。最優先事項は何ですか？私は、ある意味では、ウクライナにすでにあるすべてのシステムが実際に機能するようにすることが、現在の最優先事項だと考えている。なぜなら、すでに納入されたシステムを実際に機能させるためには、弾薬、メンテナンス、スペアパーツを提供する膨大な必要性があるからだ。新しいシステムを提供することを検討すべきではないと言っているわけではない。私たちは今、F-16 の納入を進めている。しかし、世間での議論では、既存のシステムが実際に機能するために必要なメンテナンスをすべて確実に行うのではなく、新しい

システムに焦点を当てすぎているのではないのでしょうか。

調整はある。私もその場にいたことがある。NATO、EU 同盟国、米国、カナダ、英国は非常に印象的だ。もちろん、EU 加盟国の多くも一緒になって、非常に実際的な方法で調整を行い、今後もそうしていくことを確実にしている。

次に、標準化と調達についてです。繰り返しになりますが、私は EU が行っていることを歓迎しています。NATO にもさまざまなプログラムがあります。私たちは昨年秋か夏に、これが消耗戦になることを悟りました。そのため、生産が非常に重要になります。当初、我々はウクライナを支援するために在庫を枯渇させた。しかし、在庫は十分ではありません。だから生産量を増やす必要がある。現実には、私たちの生産能力はそれほど大きくない。そのため、現在、EU および非 EU の NATO 連合国全体において、新たな投資や生産の拡大が進んでいます。

EU の努力を歓迎します。NATO は、先ほど申し上げたように、NATO 支援調達機関を通じて何年も何年も共同調達を行ってきました。また、同盟国のグループ、EU と非 EU の同盟国が一緒になって共同調達を行っていますし、同盟国として個別に行うこともあります。正直なところ、最も重要なのは、弾薬の増産や調達を決める枠組みではありません。最も重要なことは、EU の枠組みであれ、NATO の枠組みであれ、国のグループであれ、個々の同盟国であれ、実際にそれを行うことです。そして、本当に重要なのは契約を結ぶことです。各国が契約を結ぶことで、産業界は投資を行い、生産を拡大することができるからだ。もちろん、標準化も重要です。これは何十年もの間、NATO の課題でした。私たちは現在、標準化を確実にするための取り組みを強化しています。もちろん、これは NATO の取り組みでなければなりません。ご存知のように、NATO の防衛費の 80% は EU 以外の同盟国から拠出されているからです。ですから、私たちは同盟国全体の標準化を認めており、NATO が標準化に向けてさらなる努力をすることを歓迎しています。

それから、攻勢について、ウクライナ人が地歩を固めているかどうか。

攻勢が簡単だとは誰も言っていないことを忘れてはならない。これは血なまぐさく、困難で、ハードな攻勢になると明言されている。というのも、私たちが目にしたのは、ロシア軍が塹壕、戦車の障害物、ドラゴンの歯、地雷、膨大な量の地雷を備えた防衛線--何重もの防衛線--を準備しているということだ。歴史上、ウクライナの戦場でこれほど多くの地雷を目にしたことはほとんどない。だから、これが困難を極めることは明らかだった。しかし、ウクライナ人は攻勢を開始することを決めた。そして彼らは前進している。我々が期待していたほどではないかもしれないが、1 日あたり 100 メートルほど少しずつ前進している。つまり、ウクライナ側が前進しているとき、ロシア側は後退しているのだ。

そして、出発点を忘れてはならない。ロシア軍はかつて世界で 2 番目に強かった。そして今、ロシア軍はウクライナで 2 番目に強い。

これはウクライナ人にとって非常に印象的なことだ。ウクライナの兵士たちの勇気、意志、献身、決意がこれを可能にしているのだ。また、出発点を忘れてはならない。その出発点とは、2 月に本格的な侵攻が起こったとき、私たちはほとんどの専門家から、キフは数日以内に陥落し、ウクライナは数週間以内に陥落するだろうと聞かされていたことだ。

ウクライナ人は、ロシアの侵略者を押し返し、北部、キエフ周辺、東部のハリコフ周辺を解放し、南部とケルソン周辺のより大きな領土を獲得することで、彼らが間違っていることを証明した。そして今、彼らはさらに地歩を固め、より多くのウクライナ領土を解放している。そして、ウクライナは数週間以内に陥落すると言っていた専門家たちが、その防衛のスピードに不満を漏らしている。

現実には、ウクライナ人は何度も何度も予想を上回っている。そして、私たちの責任、彼らを支援す

る責任を忘れてはならない。

我々は彼らに助言することはできるが、難しい決断を下すのはウクライナの指揮官、つまり現場の兵士たちでなければならない。我々は、ここブリュッセルの NATO 本部や EU 本部に座って、彼らに正確に戦い方を指示することはできない。それは彼らの仕事だ。彼らは命がけて戦っている。そして、彼らの勇気を称賛する。

そして、戦争はもともと予測不可能なものだからだ。週間後、2 週間後、1 カ月後、1 年後に私たちがどのような状況にあるのか、誰にも正確にはわからない。そして、どのような戦争においても、私たちが目にするのは、私が言うところの、私たちが支持する側の勝利だけである。悪い日もあれば、良い日もある。良い時だけでなく、悪い時もウクライナと一緒にいる必要がある。だから、ウクライナが勝利したときだけ、私たちはウクライナを支持し続けるというようなメッセージを伝えている人たちは、ウクライナが勝利したときだけ、私たちはウクライナを支持する。いや、勝つときも負けるときも、我々はウクライナとともにいる。なぜなら、ウクライナを支援することはオプションではないからだ。加盟国や自国の平和を守り、権威主義的な政権が国際法を犯し、軍事力を行使することで自分たちの望みを実現しないようにするためには必要なことなのだ。もちろん、この戦争がどれほど残酷なものであるか、想像もつかないこともある。しかし、ウクライナを支援する我々の責任は決して忘れてはならない。

それから、ドローンについて具体的な質問がありました。そして、ドローン(無人機)の可能性について具体的な質問があった。

ルーマニア当局は、ウクライナとの国境付近でドローンの破片が発見されたことを確認し、NATO に報告しました。

彼らは昨日の定例会議で、すべての調査結果を NATO 連合国に報告した。調査は進行中であり、事件や事故の危険性を示している。ロシアによる意図的な攻撃を示す情報はない。現在進行中の調査の結果を待っているところだ。その結果がどうであれ、我々が目にしているのは、もちろん多くの戦闘であり、NATO の国境近くでの攻撃である。また、ポーランドやその他の地域でも事件が起きている。したがって、我々は警戒を強めている。国境付近で何が起きているのかを注意深く監視している。また、同盟の東部における我々のプレゼンスも高めている。

黒海についての質問もあった。

黒海は NATO にとって非常に重要だ。ロシアが黒海の穀物取引から離脱したことを非難する。我々は、穀物取引の再開に向けたトルコの努力を歓迎する。そしてもちろん、ウクライナからの穀物の安全かつ確実な輸送を確保する最善の方法は、戦争を終結させることである。このような問題を抱えているのは戦争のせいです。そして穀物取引は、戦争がもたらす結果を少しでも和らげようとする方法なのです。しかし、同時に言えるのは、我々はこの地域でのプレゼンスを高めてきたということだ。

長期にわたって行ってきたことですが、特に戦後は海上哨戒機を増やし、ブルガリアとルーマニアに戦闘部隊を配置しています。また、黒海地域の情勢全体を、文字どおりの国々を含めて注意深く監視しています。

ヴィリニウスサミットとワルシャワサミットの違いについての質問がありました。

大成功を収めた 2 つのサミットを比較するつもりはない。ワルシャワでは、新たな戦闘部隊の配備を決定した。

ヴィリニウスの前に実際に行ったことは、侵攻当日の朝、NATO 防衛計画を発動させたということです。NATO 防衛計画を発動することで、SACEUR に、必要だと判断した場所と時間により多くの部隊を展開する権限を与えることができる。そのため、彼は同盟の東部におけるプレゼンスを高めた。

戦闘部隊の数を 4 つから 8 つに倍増させた。また、航空戦力と海軍戦力も増強した。だから我々は、同盟国の領土を隅々まで守るために必要なことを行う。これは(部分的には)前方でのプレゼンスに関するものだが、同時に我々の増援能力に関するものでもある。ウクライナでの戦争やロシアの攻撃的な行動によって引き起こされる潜在的な脅威に対処するためには、より即応性の高い部隊を増強することが重要なのです。次に、南方について多くの質問がある。南部はもちろん NATO にとって非常に重要です。

北アフリカと中東における不安定な状況は、南の同盟国だけでなく、同盟国全体にとっての脅威と課題を生み出しています。我々はイラクに駐留し、テロリズムや ISIS と戦うための訓練や装備を支援していますし、モーリタニアやチュニジアのような国々と協力してテロリズムと戦うための支援を行っています。ヨルダンも NATO の緊密なパートナーだ。

北アフリカと中東の不安定化は、南の同盟国だけでなく、同盟国全体に脅威と課題をもたらしている。我々はイラクに駐留し、テロリズムや ISIS と闘うための訓練や装備を支援し、モーリタニアやチュニジアのような国々と協力してテロリズムと闘うための支援を行っている。ヨルダンも NATO の緊密なパートナーだ。

しかし、NATO 以外の機関も重要な役割を果たす必要がある。NATO と欧州連合(EU)が協力する分野です。

中国については)我々は中国を敵対視していない。

しかし、中国が我々の価値観や利益、そして安全保障に与える課題については懸念している。中国は我々の価値観を共有していない。中国は言論の自由や民主的な価値観を信じておらず、それをはっきりと表明している。

中国全土でジャーナリストや反対派、反体制派を厳しく取り締まっている。私たちは、彼らが香港の民主的権利をどのように取り締まったかを見てきた。中国が台湾をどのように脅しているかも見てきた。

そして、中国がいかに近代的な核兵器や軍事力の増強、長距離ミサイルに多額の投資をしているかを目の当たりにしている。また、ロシアとの連携もますます深まっている。ウクライナ侵攻の直前には、ロシアと中国は互いに無制限のパートナーシップを約束する協定に署名した。中国はウクライナ侵攻を非難していない。つまり、安全保障は地域的なものではなく、世界的なものだということを認識する必要がある。ウクライナで起こることはアジアにとって重要であり、アジアで起こることは我々にとっても重要だ。したがって、我々はアジア太平洋諸国とのパートナーシップ強化を歓迎している。オーストラリア、ニュージーランド、日本、韓国が NATO 首脳会議に参加しましたが、私たちはこれらの国々との協力関係をさらに強化し、可能な限り協力する用意があります。

それから、防衛費についていくつか質問があった。

もちろん、私はすべての同盟国が 2%のガイドラインを満たすことを望んでいる。しかし、そうはなっていない。

しかし、私は同盟国が行っていることに勇気づけられている。2014 年以降、すべての同盟国が防衛費を増やしている。2014 年当時、2%のガイドラインを満たしていたのは 3 カ国だけでした。今では 11 の同盟国が 2%のガイドラインを満たしており、ほぼすべての同盟国が数年以内に 2%のガイドラインを達成する計画を持っている。また、2%に達していない同盟国でも、大幅に増加している。ドイツはその一例で、実際の支出は大幅に増加している。ですから、私は進歩を見ているし、その進歩を歓迎しています。

それでは、そろそろ時間がなくなってきました。それでは、武器に関するパラドックスについてひとつ言わせてください。

というのも、ギリシャの代表は、ある意味、ウクライナへの自由主義的な武器供与を支持するとは思ってもみなかったと言ったからだ。多くの人々にとって、これはパラドックスだと思います。私たちは皆、平和を望んでいるのですから。私たちは皆、武器以外のものに投資したいと思っている。しかし問題は、平和を確保するために武器に投資する必要がある場合もあるということです。それが基本的なことだ。

そして、それは私たちが何度も学んできた教訓でもある。私は冷戦が終わったときのことをよく覚えている。私たちは皆、国防費を削減することができた。ギリシャの国防費を正確に知っているわけではありませんが、私の国の国防費は冷戦終結時には GDP の 3% でした。それを 1% にまで削減した。その責任は私にあった。私がすべてやったわけではない。しかし、私がノルウェーの政治家であったために、その一部を担ったのです。緊張が低下したため、各国議会は国防費を削減しました。脅威が減少したからだ。私たちは新しいパートナーシップを信じ、ロシアとの協力の可能性を信じていた。私はそれを強く信じていた。なぜなら、どのような歴史においても、旧敵国が友好国となる可能性があることを再確認してきたからだ。ヨーロッパでは、フランスやイギリスがそうだ。ドイツとフランスは何世紀にもわたって互いに争ってきた。今では EU の中で最も親密な友人であり同盟国である。北欧諸国では、バイキング時代から何百年も互いに争ってきた。そして今、スウェーデン人、デンマーク人、フィンランド人、ノルウェー人は親友だ。

だから可能なのです。欧州連合(EU)や北大西洋条約機構(NATO)の枠組みの中で、欧州のほとんどの国々がそうであったように、ロシアとの関係を克服することも可能だったと思います。ロシアはそのような道を選ばなかった。ロシアは近隣諸国を支配し、影響力を再び確立しようとし、ある国が NATO への加盟を決めたら挑発があったとすることにした。挑発ではない。これは民主主義であり、国家が自らの道を選択する主権的権利なのだ。

だから、2008 年にはグルジアがあった。2014 年にはクリミアがあった。そして 2014 年には本格的な侵攻があった。ロシアは立ち去った。しかし、それならば、ウクライナを支援する防衛に投資することで、NATO 同盟国や EU 加盟国の平和を確保する以外に選択肢はない。なぜなら、プーチン大統領がウクライナで勝利すれば、ウクライナ人にとって悲劇だが、我々にとっても危険だからだ。軍事力を行使すれば、自分たちの望む権威主義的指導者を手に入れることができるというメッセージを送ることになる。ですから、ウクライナを支援することは私たちの安全保障上の利益であり、EU 加盟国、欧州連合(EU)、NATO 同盟国がウクライナに提供しているすべての支援に非常に感謝しています。ありがとうございました。

